

## 調査レポート

### 沖縄県内におけるジャパンウインターリーグ開催による経済効果

～経済効果を初算出、ジャパンウインターリーグ 2023 は5億 4,600 万円～

#### 《要旨》

- ・ ジャパンウインターリーグは 2022 年から毎年 11 月～12 月に沖縄県内の球場にて開催される野球のリーグ戦である。
- ・ 当リーグは、プロ野球を目指す満 15 歳以上を対象とした「トライアウトリーグ」とプロ野球や社会人野球の選手がスキルアップを目指して参加する実践目的の「アドバンスリーグ」の2種類に分けられる。国内に加え海外からの参加も多く、2023 年に開催されたジャパンウインターリーグ 2023 では 101 人の選手が参加し、うち海外選手が全体の約3割を占めた。
- ・ 当リーグには国内のプロ野球、独立リーグ、社会人野球、MLB など多くの球団のスカウトが参加しており、ジャパンウインターリーグ 2023 では参加選手 101 人中 27 人が契約を獲得した。
- ・ ジャパンウインターリーグ 2023 の延べ観客数は 2,040 人となり、前年の約2倍となった。これをもとに試算した当リーグの沖縄県内における経済効果は5億 4,600 万円となった。
- ・ 今後の展望として、2024 年 11 月にジャパンウインターリーグ 2024 を開催予定。2025 年以降もリーグの継続・拡大を目指す。
- ・ 当リーグは野球界のプラットフォームとして世界から多くの人々を呼び込む可能性のあるコンテンツである。参加者数や観客数が増加するにつれ、経済効果もさらに拡大することが見込まれ、その実現のために行政や観光事業者などと連携した広報や集客活動の強化が必要となるであろう。今後も野球界や沖縄観光の発展に向けたジャパンウインターリーグの動向に注目したい。

## 目次

1. はじめに	1
2. ジャパンウインターリーグのあゆみ	1
(1) ジャパンウインターリーグの概要	1
① ジャパンウインターリーグとは	1
② トライアウトリーグ	2
③ アドバンスリーグ	3
(2) ジャパンウインターリーグのあゆみ	3
3. ジャパンウインターリーグ 2023 の経済効果	5
(1) リーグ参加者および観客数	7
(2) リーグ関連支出額(直接支出額)	7
(3) 沖縄県内におけるジャパンウインターリーグ 2023 の経済効果	8
(4) 産業別の経済効果	9
4. 今後の展望	9
5. おわりに	10

## 1. はじめに

沖縄県は、年間を通して比較的暖かい気候であるという特性から、観光の閑散期となる冬場を中心としてスポーツツーリズムによる観光誘客を図っている。中でもプロ野球春季キャンプに見られるように野球の人気は根強く、冬場の新たな野球関連イベントとしてジャパンインターリーグが2022年より県内の球場にて開催されている。

ジャパンインターリーグは毎年11月～12月に開催され、「陽の目を浴びていない場所に光を」をコンセプトに、プロ野球を目指す選手のトライアウトやプロ・社会人野球選手のスキルアップを目的とした試合が行われ、国内初の本格的なウインターリーグとして注目されている。また、沖縄県の「令和5年度スポーツツーリズム戦略推進事業」にて、県内で開催されるスポーツイベントのモデル事業に選出されており、「スポーツアイランド沖縄」の形成に向けて今後の発展が期待されるイベントである。

りゅうぎん総合研究所は、野球を軸とした新たな観光コンテンツとしてジャパンインターリーグの成長性に着目し、その県内への経済効果について調査した。本調査ではジャパンインターリーグのあゆみを振り返りながら、当リーグ開催により沖縄県経済にもたらされる効果を定量的に分析する。また、分析においては当リーグ開催による経済活動により新たに生み出される需要（直接支出額）を推計し、これをもとに産業連関分析を行うことで経済波及効果や雇用効果を試算した。

## 2. ジャパンインターリーグのあゆみ

### (1) ジャパンインターリーグの概要

#### ① ジャパンインターリーグとは

ジャパンインターリーグは2022年、株式会社ジャパンリーグ（2022年設立、鷺崎一誠社長）が主催し、同社と沖縄県出身の元プロ野球選手大野倫氏らが中心となり発足した野球のウインターリーグである。アメリカのウインターリーグへ参加経験のある鷺崎氏の「不運な怪我やタイミングのズレで活躍する機会を逃した選手へプレーする場所を提供したい」との思いから始まった。沖縄を選んだ理由として、鷺崎氏は①冬場でも野球ができる温暖な気候、②オフの日には観光ができるリゾート地、③プロ野球春季キャンプを例に野球が盛んな地域であることの3つを挙げている（図表1）。

図表1 ジャパンインターリーグの舞台として沖縄を選んだ理由



1. 冬場でも野球ができる温暖な気候
  2. オフの日には観光ができるリゾート地
  3. プロ野球春季キャンプを例に野球が盛んな地域
- (株式会社ジャパンリーグ鷺崎氏)

出所：りゅうぎん総合研究所にて作成

当リーグは、次の「トライアウト」と「アドバンス」の2種類に分けられる。

## ② トライアウトリーグ

トライアウトリーグはプロを目指す満15歳以上の野球経験者（義務教育終了）を対象としたリーグである。高校生から大学生、一般人まで幅広い年齢の選手が参加しており、国内のみならず世界中から選手とスカウトが集まる野球界の登竜門となっている。選手はチームに分かれ1ヶ月間リーグ戦を行い、スカウトにアピールすることができる。

トライアウトリーグの特徴は、①長期間のトライアウトによって選手は実力が発揮できスカウト側とのマッチングの整合性が高まる実践環境の提供、②全試合の選手の評価を定量データ化しリモートでスカウトができる仕組み、③国内外のプロ野球や独立リーグ、社会人野球などのスカウトを集約し多様な進路の提供、④指導者やアナリスト、トレーナーなどの様々な関係者が集まる野球界のプラットフォームとしての機能の4つである（図表2）。

図表2 トライアウトリーグの4つの特徴

<b>1. 実践環境の提供</b>	<b>2. リモートスカウティング</b>
選手は長期間のトライアウトによって実力が発揮でき、スカウト側も本来の実力と人間性がわかり、マッチングの整合性が高まります。	全試合の選手の評価を定量化（スタッツ、トラッキングシステムでの数値データ、動画）することで直接選手を見れなくともリモートでスカウティングができる新しいトライアウトです。
<b>3. 多様な進路</b>	<b>4. 野球界のプラットフォーム</b>
MLB、NPB、国内独立リーグ、海外独立リーグ、社会人野球などそれぞれでスカウティングやトライアウトをしていたものを集約化することで参加者の進路を広げることができます。	世界中から様々なバックボーンのプレーヤーが参加します。野球選手はもちろん指導者、アナリスト、アナウンサー、トレーナーなど野球に携わる様々なプレーヤーが集い、化学変化が起きるプラットフォームです。

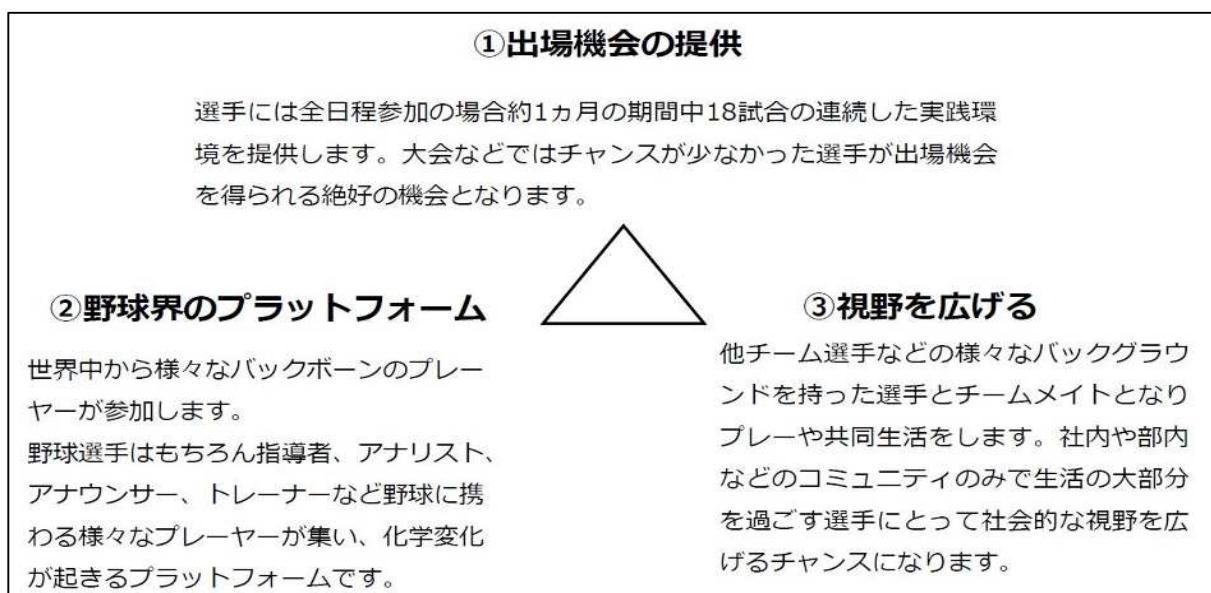
出所：株式会社ジャパンリーグ提供資料より抜粋

### ③ アドバンスリーグ

アドバンスリーグはプロ野球や社会人野球の選手が参加する実践目的のスキルアップリーグである。国内のプロ野球や独立リーグ、社会人野球に加え、韓国や台湾のプロ野球球団も参加しており、各球団から派遣された選手がチームに分かれ、1か月間リーグ戦を行う。

アドバンスリーグの特徴は、①大会などへの参加が少なかった選手への出場機会の提供、②指導者やアナリスト、トレーナーなどの様々な関係者が集まる野球界のプラットフォームとしての機能、③他チーム選手など様々なバックグラウンドを持つ選手と交流ができ、視野を広げる機会の提供の3つである（図表3）。

図表3 アドバンスリーグの3つの特徴



出所：株式会社ジャパンリーグ提供資料より抜粋

### （2） ジャパンインターリーグのあゆみ

1回目のジャパンインターリーグは2022年11月24日～12月25日に開催された。当リーグはトライアウトリーグのみの開催であり、海外選手7人、県出身15人を含めた総勢66人の選手が参加した。参加選手はチームに分かれ、県内4球場にて21試合が行われた。試合中の選手の投球や打球データを数値化し、そのトラッキングデータをYouTubeにて試合中継とあわせて配信する国内初の取り組みを行い、リモートでもスカウティングができる新たな仕組みが話題となった。これにより国内のプロ野球、独立リーグ、社会人野球、MLB（アメリカ、カナダのプロ野球リーグ）などから31球団ものスカウトが参加し、36人の選手がスカウトされ、うち10人が契約を獲得した。

その他にもトレーナーやアナリストによる講座やももいろクローバーZの高城れにさんによる始球式、日本プロ野球選手会が主催するキャッチボールクラシックと連携した野球教室などのイベントを開催し、多方面で盛り上がりを見せ、開催期間中の延べ観客数は約1,000人を動員した（図表4）。

2回目のジャパンウィンターリーグ 2023 は 2023 年 11 月 23 日～12 月 24 日に開催された。当リーグからトライアウトに加え新たにアドバンスリーグが開催され、参加選手数は第 1 回リーグより 35 人増の 101 人となった。そのうち海外選手は 24 人増え、全体の約 3 割を占めた。

トライアウトリーグは 11 月 25 日～12 月 24 日にかけてコザしんきんスタジアム（沖縄市野球場）にて 21 試合が行われた。日本、韓国、アメリカ、イギリスなど世界各国から 50 人の選手が参加した。また、独立行政法人国際協力機構（JICA）と提携し、「世界の野球選手に光を」プロジェクトを実施し、アルゼンチン U-23 代表のアンマ・ペドロ選手を招聘し話題となった。

アドバンスリーグは 11 月 23 日～12 月 17 日にかけて宜野湾市立野球場および ANA BALL PARK 浦添（浦添市民球場）にて計 32 試合が行われた。国内独立リーグや実業団などから派遣された 50 人の選手が参加した。リーグ最終日は海外選手対日本人選手のビジョンマッチも行われ、熱戦を繰り広げた。

スカウトは国内外から 31 球団参加し、契約を獲得した選手は 27 人に上り、第 1 回リーグの 2 倍以上となった。また、コーディネーターとして参加していたダニエル・カタラン<sup>1</sup>氏が台湾のプロ野球チームの打撃コーチとしてスカウトされ契約するなど、選手のみならずコーチ陣によるスカウト契約の動きもあった。

また、日本全国のコンビニエンスストア等を中心に広報活動を強化した結果、延べ観客数は 2,040 人となり、第 1 回リーグの約 2 倍となった。さらに YouTube に加えて動画配信サービスの「ベースボール LIVE」でも試合の様子が配信され、オンラインでの視聴者数も増加した。

図表4 ジャパンウィンターリーグのあゆみ(2022年～2023年)

	(第1回) ジャパンウィンターリーグ	(第2回) ジャパンウィンターリーグ2023
開催日程	2022年11月24日～2022年12月25日	2023年11月25日～2023年12月24日
開催球場	コザしんきんスタジアム（沖縄市野球場） 宜野湾市立野球場 ANA BALL PARK 浦添（浦添市民球場） オキハム読谷平和の森球場	コザしんきんスタジアム（沖縄市野球場） 宜野湾市立野球場 ANA BALL PARK 浦添（浦添市民球場）
開催リーグ	トライアウトのみ	トライアウト、アドバンス
参加選手数 (うち海外)	66人 7人	101人 31人
(うち県出身)	15人	10人
契約者数	10人	27人
観客数	1,000人	2,040人

出所：株式会社ジャパンリーグ提供資料をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

<sup>1</sup> ドジャースの大谷翔平選手をはじめ、メジャーリーグや日本のプロ野球選手も多く訪れる米シートルのトレーニング施設「ドライビンベースボール」のバッティングトレーナー。

### 3. ジャパンウィンターリーグ 2023 の経済効果

#### (産業連関表について)

産業連関表とは、一定期間（通常 1 年間）における、ある特定の地域で行われた財やサービスの経常的な取引（生産・販売の実態）を行列形式で表にまとめたものである。

各産業は、他の産業から原材料や燃料などを購入し、これを加工して別の財・サービスを生産し、さらにそれを別の産業に対して販売する。購入した産業は、それらを原材料等としてまた別の財・サービスを生産する。産業連関表は、このような財・サービスの「購入→生産→販売」という産業相互間の連鎖的なつながりを一覧表にしたものである<sup>2</sup>。

本調査では、最も新しい 2015 年（平成 27 年）沖縄県産業連関表を用いて経済効果分析を行う。なお、沖縄県が作成した 14 部門表には、当リーグ開催による需要増加が見込まれる「宿泊業」や「飲食サービス業」等がないため、公表用基本分類表（行 458 部門、列 367 部門）より同部門を抽出し、汎用的に活用できるよう 24 部門表を作成した（図表 5）。

図表5 産業連関表の組み換え

14部門表		24部門表	
	部門名		部門名
1	農林水産業	1	農林水産業
2	鉱業	2	製造業
3	製造業	3	建設業
4	建設業	4	電気・ガス・水道
5	電気・ガス・水道	5	卸売業
6	商業	6	小売業
7	金融・保険	7	金融・保険業
8	不動産	8	不動産業
9	運輸・郵便	9	運輸・倉庫業
10	情報通信	10	旅行・その他の旅行附帯サービス
11	公務	11	情報・通信・郵便業
12	医療・保健・社会保障・介護	12	公務
13	サービス	13	教育・研究
14	その他	14	医療・福祉

→

15	会員制企業団体
16	対家計民間非営利団
17	貸自動車業
18	物品賃貸業(除く貸自動車)
19	対事業所サービス
20	宿泊業
21	飲食サービス業
22	対個人サービス
23	事務用品
24	分類不明

出所：りゅうぎん総合研究所

<sup>2</sup> 総務省 HP 「産業連関表とは」 [https://www.soumu.go.jp/toukei\\_toukatsu/data/io/t\\_gaiyou.htm](https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/data/io/t_gaiyou.htm)

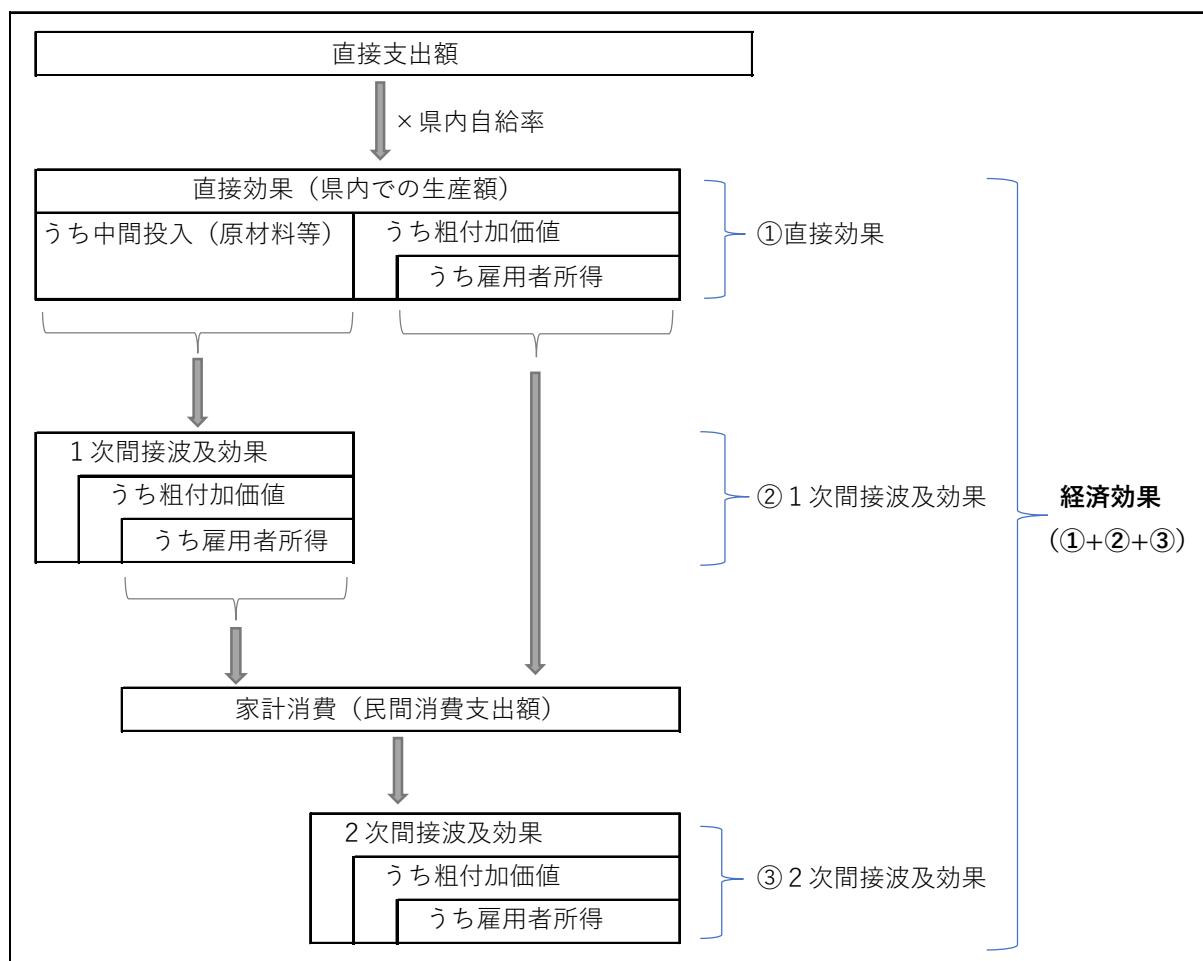
## (経済効果算出の手順)

経済波及効果算出の流れを図表6に示した。分析にあたり、前提条件となるジャパンウインターリーグ2023の開催によって新たに発生した需要である直接支出額を求め、これに自給率を乗じたものが「直接効果」(県内生産額)となる。直接効果とは、各産業における事業活動のうち、県内で生じた財やサービスに対する需要のことで、県内産業に新たに生じた生産增加分を指す。自給率を乗じるのは、需要のすべてが県内で生産された財やサービスに対して発生するわけではなく、域外(県外・海外)からの移輸入により賄われた分も含まれており、その域外生産分を除くためである。

次に、産業連関表を用いて間接波及効果を求める。間接波及効果は「1次間接波及効果」(直接効果に要した原材料を通して他の産業の生産を誘発する効果)、「2次間接波及効果」(直接効果、1次間接波及効果によって誘発された雇用者所得が家計消費を通して各産業の生産を誘発する効果)を足し合わせたものである。

これらの直接効果、1次間接波及効果、2次間接波及効果の合計が「経済効果(生産誘発額)」となる。また、経済効果のうち雇用者に支払われた賃金である雇用者所得や企業の利益である営業余剰などが「粗付加価値額」となる。

図表6 経済波及効果算出の流れ



出所:りゅうぎん総合研究所

## (1) リーグ参加者および観客数

ジャパンウインターリーグ 2023 の参加者において、選手・関係者は合計 181 人、報道関係者・スカウト等は 352 人となった。また、大会期間中の観客数は、延べ 2,040 人となった。延べ観客数のうち、県内からの観客数は 1,800 人、県外・海外からの観客数は 240 人となった（図表 7）。

図表7 ジャパンウインターリーグ 2023 の参加者・観客数（単位:人）

選 手・関 係 者	181
報道関係者・スカウト等	352
観 客（延 ベ）	2,040
うち県内客	1,800
うち県外・海外客	240

出所:株式会社ジャパンリーグ提供データより

## (2) リーグ関連支出額(直接支出額)

ジャパンウインターリーグ 2023 の開催にあたっては、選手や関係者等に加え、県外や海外からの観客が沖縄県を訪れ、県内で宿泊や飲食、娯楽・レジャー、土産品購入等に支出するほか、多くの県民が会場へ出かけ飲食などをおこなう。また、主催者による大会運営のための支出や関連経費等の支出があり、これらを合計したものが直接支出額となる。

この直接支出額を推計すると、総額で 4 億 100 万円となった（図表 8）。その内訳は宿泊費が 1 億 3,400 万円、飲食費は 6,800 万円、土産品購入が 6,900 万円、交通費が 5,000 万円などとなった。

図表8 ジャパンウインターリーグ 2023 関連支出(直接支出額)

支 出 項 目	支 出 額 (百万円)
宿 泊 費	134
飲 食 費	68
土 産 品 ・ グ ッ ズ 購 入 費	69
交 通 費	50
娯 楽 ・ レ ジ ャ ー 費	40
そ の 他	40
合 計	401

出所:りゅうぎん総合研究所

### (3) 沖縄県内におけるジャパンインターリーグ 2023 の経済効果

まず、県内の産業全体自給率は 100 ではないため、(2) で求めた直接支出額 4 億 100 万円に自給率をかけると、県内供給分である直接効果 3 億 4,700 万円が求められる（図表 9）。

次に、宿泊費や飲食費、土産品購入費などの需要が発生すると、当該産業だけでなく、こうした産業に原材料やサービス等を提供している産業の売上増加へと効果が波及していく。これが 1 次間接効果であり、1 億 3,200 万円となる。さらに、直接効果と 1 次間接効果で生じた各産業における雇用者の所得増加は、家計（個人）の消費支出を増加させ、関連する各産業の生産を誘発していく。これが 2 次間接効果であり、6,800 万円となる。直接効果、1 次間接効果、2 次間接効果の合計が 5 億 4,600 万円となり、これがジャパンインターリーグ 2023 開催による経済効果である。直接支出額に対し、1.36 倍の経済効果をもたらすことになる。

また、経済効果のうち粗付加価値額が 2 億 9,300 万円となり、さらにそのうちの 1 億 2,700 万円が雇用者所得と推計された。

図表9 ジャパンインターリーグ 2023 による経済効果

単位：百万円	経済効果額 (生産誘発額)	粗付加価値誘発額		雇用者所得誘発額
		雇用者所得誘発額	雇用者所得誘発額	
直 接 効 果	347	177	78	
1 次 間接 効 果	132	74	32	
2 次 間接 効 果	68	42	17	
<b>総合効果（経済効果）</b>	<b>546</b>	<b>293</b>	<b>127</b>	
直 接 支 出 額	401	—	—	
波 及 効 果		1.36 倍（総合効果 / 直接支出額）		

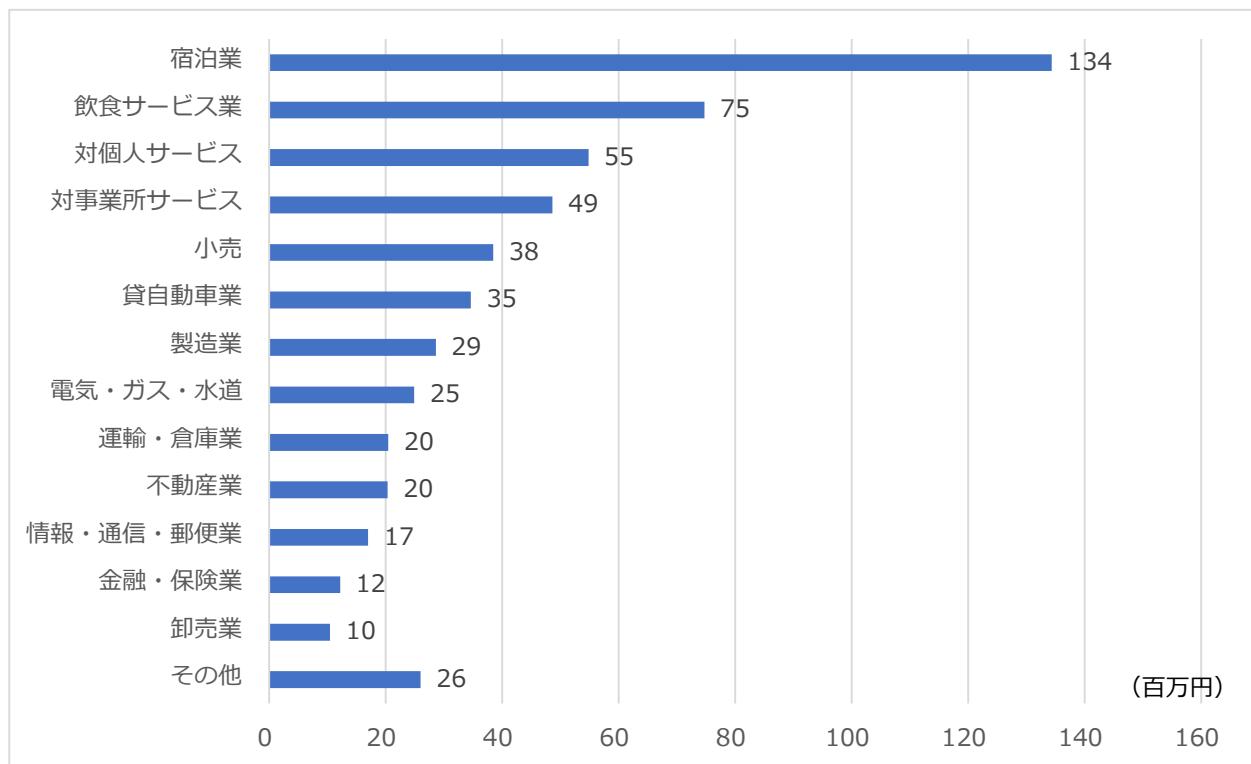
出所：りゅうぎん総合研究所

- (注) 1. 直接効果は、直接支出に県内自給率を乗じたもの（域外生産分を除くため）。
2. 1 次間接効果は、原材料を他の産業から購入することによって起こる波及効果。
3. 2 次間接効果は、直接効果、1 次間接効果によって誘発された雇用者所得が家計消費を通して再び生産を誘発する効果。
4. 生産誘発額は、需要（直接支出）の増加により誘発された各部門の生産額の合計。
5. 粗付加価値は、誘発された生産額の中に占める雇用者所得や営業余剰など。
6. 端数処理により合計は合わないことがある。

#### (4) 産業別の経済効果

経済効果 5 億 4,600 万円を産業別にみると、ホテルなどの「宿泊業」が 1 億 3,400 万円と最も大きく、次いで「飲食サービス業（飲食店など）」が 7,500 万円、「対個人サービス業」5,500 万円、「対事業所サービス業」4,900 万円などとなった（図表 10）。

図表 10 ジャパンウィンターリーグ 2023 による産業別経済効果



出所：りゅうぎん総合研究所

#### 4. 今後の展望

2024 年 11 月 23 日～12 月 19 日にコザしんきんスタジアム（沖縄市野球場）にて、3 回目となるジャパンウィンターリーグ 2024 の開催が予定されている（図表 11）。当リーグはトライアウトリーグ、アドバンスリーグとともに定員を 80 人とし、全 55 試合を予定している。試合は全試合、スポーツ専門の動画配信サービス「DAZN（ダゾーン）」にて独占無料配信される。また、アドバンスリーグには国内プロ野球からは初となる「埼玉西武ライオンズ」や「東北楽天ゴールデンイーグルス」、海外からは台湾のプロ野球球団「統一ライオンズ」や中国の「中国野球協会」の選手の参加が決定しており、今後の参加動向が注目される。さらに開幕ゲームに 3,000 人の観客動員を目指しており、県内の飲食業組合とタイアップしたフードトラックの呼び込みや、学校法人とのコラボレーション企画などを実施予定である。

2025 年以降も野球界のプラットフォームとしてリーグの継続・拡大を目指す。

図表 11 ジャパンウインターリーグ 2024 の概要(2024 年 10 月9日時点)

ジャパンウインターリーグ2024	
開催日程	2024年11月23日～2024年12月19日
開催球場	コザしんきんスタジアム（沖縄市野球場）
開催リーグ	トライアウト、アドバンス
参加定員	160人（トライアウト80人、アドバンス80人）
その他 トピック	・動画配信サービス「DAZN」の全試合無料配信 ・日本プロ野球球団の初参加 など

出所：株式会社ジャパンリーグ提供資料をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

## 5. おわりに

本レポートにてジャパンウインターリーグのあゆみを振り返り、当リーグの開催によりもたらされる沖縄県内への経済効果を算出した。当リーグは 2022 年より開催され、その歴史は浅いが、地道な PR 活動を通して野球界の登竜門として国内外から多くの注目を集めようになり、2 回目となるジャパンウインターリーグ 2023 は前年の約 2 倍の観客を動員した。

2024 年プロ野球春季キャンプの経済効果が過去最高額の 177 億円（2024 年 7 月りゅうぎん総合研究所）となっており、野球関連イベントは沖縄県内においても需要が高く、また沖縄の観光業界の課題である観光需要の年間平準化にも貢献していることは明らかである。ジャパンウインターリーグはトライアウトやスキルアップといった野球をする人々の夢に向かって挑戦できるイベントという側面のみならず、野球界のプラットフォームとして、野球関係者を中心に世界から多くの人々を呼び込む可能性のあるコンテンツであり、今後の益々の発展が期待される。

また、参加者数や観客数が増加するにつれ、経済効果もさらに拡大することが見込まれ、それを実現するためには行政や観光事業者などと連携した広報や集客活動の強化が必要となるであろう。

今後も野球界や沖縄観光の発展に向けたジャパンウインターリーグの動向に注目したい。

りゅうぎん総合研究所 上席研究員 我謝 和紀

(参考)ジャパンウィンターリーグ 2023 による経済効果 24 部門表

単位：百万円	経済効果計				粗付加 価値額	雇用者 所得
	直接効果	1次間接 波及効果	2次間接 波及効果			
農林水産業	7	0	6	1	3	2
製造業	29	8	15	5	10	4
建設業	1	0	1	0	0	0
電気・ガス・水道	25	0	21	4	13	4
卸売業	10	3	6	2	10	6
小売業	38	24	5	9	21	12
金融・保険業	12	0	7	5	9	4
不動産業	20	0	4	16	17	1
運輸・倉庫業	20	13	5	3	11	5
旅行・その他旅行附帯サービス	7	0	7	0	3	1
情報・通信・郵便業	17	0	13	4	10	5
公務	0	0	0	0	0	0
教育・研究	2	0	0	1	1	1
医療・福祉	4	0	0	4	2	2
会員制企業団体	1	0	1	0	1	1
対家計民間非営利団	1	0	0	1	0	0
貸自動車業	35	27	7	0	21	4
物品貯貸業（除く貸自動車）	2	0	2	0	2	0
対事業所サービス	49	22	23	4	31	17
宿泊業	134	134	0	0	64	23
飲食サービス業	75	68	3	4	31	20
対個人サービス	55	47	4	4	34	15
事務用品	1	0	1	0	0	0
分類不明	0	0	0	0	0	0
合 計	546	347	132	68	293	127

出所：りゅうぎん総合研究所

(補足)経済効果を求める式(投入モデル)は以下の通りである

$$\begin{aligned}\Delta X_1 &= \{ I - (I - M) A \}^{-1} (I - M) \Delta F \\ \Delta X_2 &= \{ I - (I - M) A \}^{-1} (I - M) c k w \Delta X_1 \\ \Delta X &= \Delta X_1 + \Delta X_2\end{aligned}$$

$\Delta X_1$  : 生産誘発額 (直接効果 + 1次間接波及効果)

$\Delta X_2$  : 生産誘発額 (2次間接波及効果)

$\Delta X$  : 経済波及効果 (直接効果 + 1次間接波及効果 + 2次間接波及効果)

I : 単位行列

A : 投入行列係数

M : 移輸入係数

$\Delta F$  : 最終需要増加額 (生産額)

c : 民間消費支出構成比

k : 消費転換係数

w : 雇用者所得率